

導体サイズ適正化によるCO₂削減に向けての活動が第35回銅センター賞を受賞

「電線ケーブルの導体サイズ適正化によるCO₂排出量削減に向けての活動」で6月3日に第35回銅センター賞（社）日本銅センター）を受賞した。本件は（社）日本電線工業会 益尾和彦氏との共同受賞である。

<受賞理由>

平成17年10月に導体サイズアップのCO₂削減効果に着目、さらにIEC規格を参考にして最適導体サイズの決定とサイズアップによるCO₂削減量の試算を経て、「サイズアップにより日本全国総CO₂排出量の1%が削減できる」という試算値の算出を成し遂げた。サイズアップを実現・普及させるため、所轄官庁などへの働きかけを積極的に進めている。今後、各種工場・ビル等の配線現場の実態調査を踏まえて、JCS等の規格類を整備して最適導体サイズの実現・普及を目指す。本活動は銅の有効な利用により環境改善に大きく寄与するものであり、銅の需要の促進に寄与するだけでなく、銅が環境に優しいというイメージアップに貢献するものである。

<銅センター賞>

（社）日本銅センターは銅の需要を促進するため、銅及び銅製品に関する知識の普及、各種資料の作成、技術の研究及びその応用等につとめてきたが、これを一層推進する一助として下記の要領により表彰を行なう。

表彰の対象

- （1）各種の技術分野において銅の有効な利用により需要の促進に寄与したもの
 - （2）デザイン、アイデアがすぐれ銅製品の開発に寄与したもの
 - （3）銅製品の普及販売の促進に貢献したもの
 - （4）銅製品のイメージアップに貢献のあったもの
- 以上の各項の該当者が選考委員会で選考される。



写真1 相馬会長より表彰状を受ける。
(奥は益尾氏)



写真2 日本銅センター賞碑（ブロンズ像）

(環境技術G 久米主管研究員)